

令和元年度 指定管理者モニタリング結果及び評価シート

評価期間 平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日

施設状況

施設名称	ふじみ野市立子育てふれあい広場	所管課	こども・元気健康部子育て支援課
指定管理者名	社会福祉法人むさし野たんぽぽ会	施設分類	子育て支援施設
指定期間	平成30年4月1日 ～ 令和4年3月31日	利用料金制導入	一部利用料金制(利用料金及び指定管理料)
導入年月日	平成18年9月1日	指定回数	4回
施設設置目的	子育てふれあい広場は、乳幼児を子育て中の家庭に交流の場を提供するとともに、子育てに関する情報の提供、助言及び乳幼児の一時預かりの実施など、子育て家庭に対する総合的な支援を行うことにより、地域における子育て支援基盤を形成し、誰もが安心して子育てができるまちの実現をめざし設置。		
施設概要	【所在地】ふじみ野市霞ヶ丘1丁目2番7号「ふじみ野市サービスセンター内」1階【専用面積】295.88㎡【施設内概要】①一時預かり室80.97㎡ ②つどいの広場107.71㎡ ③事務室17.35㎡ ④幼児用便所18.24㎡ ⑤調理室4.38㎡ ⑥授乳室5.26㎡ ⑦休憩・更衣室10.75㎡ ⑧前室51.22㎡		
管理運営の基本方針	①子育てふれあい広場の設置目的に照らし適切な管理運営を行う。②公の施設であることを念頭に置いて、公平な運営に努める。③利用者の意見を反映する。④個人情報保護を徹底する。⑤苦情解決体制をとり、サービス向上に努める。⑥効率的な管理運営に努める。⑦管理責任者及び火元責任者を配置する。⑧従事者の研修を行い資質向上に努める。⑨健康診断を行い、健康管理に努める。⑩安全管理に配慮し火災、損傷を防止し財産の保全を図ると共に利用者及び事業従事者の安全確保に努める。⑪衛生管理に配慮し、快適な状態の保持に努める。⑫火事、事故等の緊急事態に備え、防災計画を定め避難、救出等の訓練を定期的実施する。		
指定管理者の主な業務	①ふれあい広場の維持管理 ②子育て家庭に対する交流の場の提供 ③子育てに関する情報の提供 ④子育てに関する相談業務 ⑤子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ⑥関係機関との連携 ⑦子育て家庭の支援に関する乳幼児の一時預かり		

【評価項目】

【評価基準】 5:目標値以上の結果で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが大きいと評価できる場合/4:目標値以上の結果で評価できる場合(上記「5」以外)、又は業務等が適切で、期待する水準以上であった場合/3:業務等が適切で目標値に達している場合、又は業務等が期待する水準どおりであった場合/2:実施計画に基づく管理運営や事業の実施が目標値又は期待する水準をやや下回る場合/1:目標値を大きく下回る場合

1 施設の設置目的の達成に関する取組

施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか		評価
管理運営状況	施設の設置目的及び市が示した基本方針に従い管理運営を進めており、事業毎のアンケート及び利用者アンケートの実施の他、利用者とのコミュニケーションを大切にすることを心掛け、施設利用者のニーズや意見・要望をより多く反映できるようにした。また、子育て支援者研修会で学んだ「スキンシップの大切さ」を実践するため、親子で触れ合う遊びを取り入れ、スキンシップの大切さや効用を保護者に伝えた。その他、不審者から利用者の安全を守るために、危険を知らせるパトランプの設置や職員の催涙スプレー携帯などの防犯対策に取り組んだ。さらに、ふじみ野Fメール、電子母子手帳「母子モ」等多くの宣伝媒体を活用し、事業内容の紹介を子育て世帯に発信するなど、利用者拡大に繋げている。	3
区分	具体的な取組の状況・実績	
市指定事業	①子育てふれあい広場の維持管理 ②子育て家庭に対する交流の場の提供 ③子育てに関する情報の提供 ④子育てに関する相談業務 ⑤子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ⑥子育て家庭の支援に関する関係機関との連携 ⑦乳幼児の一時預かり	
自主事業	①親子リズム(月2回実施431人) ②あかちゃん体操(月1回実施147人) パパとあかちゃん体操(年1回実施6人) ③絵本のよみきかせ(月1回実施276人) ④わらべうた遊び(月1回実施329人) ⑤壁面制作(年3回実施七夕80枚、クリスマス89枚、節分65枚) ⑥親子バンド活動演奏年5回323人) ⑦シャケちゃんと歌って遊ぼう(夏1回開催58人) ⑧ほっこりタイム(事業のない日全日実施)221回・夕暮れタイム(閉館前実施221回) ⑨おもちゃのひろば(良質おもちゃの紹介、親子で遊びを体感年4回実施71人) ⑩35歳以上で初めてのママ交流会(年2回連続10人) ⑪ウクレレミニライブ(地域で活動する音楽グループ、親子参加型演奏会年2回実施92人) ⑫講座「初めての夏の過ごし方」(年1回実施父母15人) ⑬講座「小児救急」(年1回実施父母27人) ⑭父親支援講座(年4回連続講座実施10人)・お母さんの日曜教室(年1回実施6人) ⑮読み聞かせ講座(年1回実施38人) ⑯子育て講座(年1回実施父母18人)	
サービス向上の取り組み	今年度もつどいの広場では事業のない日に子どもが楽しんでいる間にお母さんがホッと一息つける機会を年間221回設け好評であったので、さらに閉館前にも(年間221回)実施定着させ、お母さんたちの日頃の育児疲れを解消した。また、各事業の終了後は必ず保護者に声を掛け、事業を通して子どもの成長を確認し合ったり、思うように事業に参加しきれなかった場合には保護者の気持ちをフォローするよう心掛けた。事業後の時間帯は保護者との距離が近くなり、他愛もない会話から相談に繋がることが多いため、ゆったりと対応するよう心掛けた。相談内容によっては保健センターや発育・発達支援センターへ繋げ連携していくことを意識することとした。さらに、来所した子どもがお誕生日の場合、広場の利用者を巻き込んで即興に「ハッピーバースデー」を歌い、保護者あてにメッセージカードをプレゼントし誕生日をお祝した。	

2 指定管理者の健全性

団体の財務状況や組織体制は安定していて、施設管理を継続的、安定的に行うことができるか		評価
外部専門家からの指摘事項の概要	売上高は3億円超あり、安定している。	3
その他特記事項		

3 施設の有効活用

		利用区分等	予定(計画・目標) 単位	利用実績 単位	対前年比	年度目標達成率	評価	
施設利用状況		つどいの広場利用者数	21,000 人	16,860 人	81.6%	80.3%		
		一時保育利用者数	1,100 人	914 人	88.5%	83.1%		
		子育て相談件数	200 件	372 件	164.6%	186.0%		
		(特記事項) 施設の利用が0・1・2・3歳と低年齢児が多く、市内の0から3歳の人口が減少傾向にあることに加え、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2月29日から相談業務と一時預かりを除き休館としたため、年間を通した利用者が減少した。子育て相談件数については、保育士資格を持つ職員すべてが相談業務に携わることになり、多くの利用者からの相談について丁寧に向き合い、相談者が納得し、悩み等を解決できるまでフォローするようにした効果が、相談件数が増加した。						
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及びその理由				
	市指定事業	【管理業務の範囲】：ふじみ野市立子育てふれあい広場の管理運営に関する基本協定書第12条 (1)ふれあい広場の維持管理に関すること (2)子育て家庭に対する交流の場の提供に関すること (3)子育てに関する情報の提供に関すること (4)子育てに関する相談業務に関すること (5)子育て及び子育て支援に関する講習の実施に関すること (6)子育て家庭の支援に関する関係機関との連携に関すること (7)乳幼児の一時預かりに関すること (8)その他市長が必要と認める業務に関すること		追加事業				
	自主事業	【市指定事業に基づいた自主的な事業】 (1)親子リズム (2)あかちゃん体操・パパとあかちゃん体操 (3)絵本のよみきかせ (4)わらべうた遊び (5)壁面制作 (6)親子のバンド活動(広場に集う母親たちの音楽活動) (7)「シャケちゃんとうたって遊ぼう」参加費一家庭100円を徴収 (8)ほっこりタイム (9)おもちゃのひろば (10)35歳以上で初めてのママ交流会 (11)ウクレレミニライブ (12)講座「初めての夏の過ごし方」 (13)講座「小児救急」 (14)父親支援講座・お母さんの日曜教室 (15)読み聞かせ講座 参加費一家庭100円を徴収 (16)子育て講座		【追加事業】 「ほっこりタイム」に加え「夕暮れタイム」を実施導入した。 【未実施時事業】 (1)親子フェスティバル 子育て支援全体のお祭りをイメージして計画したが、子育て支援拠点の中で調整がつかず実現に至らなかった。 (2)おにいさん&おねえさんと遊ぼう! ボランティアグループとの打ち合わせが実現せず実施に至らなかった。				
利用サービス向上の取組	低年齢児を対象としている施設のため、事業内容も親子で楽しめるようなわらべうたやふれあい遊びなどスキンシップを多く取り入れた。より充実した内容を提供できるよう代表職員を研修に派遣させ、その内容を職員間で共有化した。新規の取り組みとして、あかちゃん体操では親子のステップ体操、親子リズムでは体操のバリエーションを増やしたり、お父さんの日曜教室での要望からお母さんの日曜教室を1回実施し、家族ぐるみの交流に繋がったりした。各講座の開始前にはわらべうたあそびを取り入れ、参加者の緊張をほぐし、知らない人ともリラックスして楽しんでもらえる雰囲気づくりを行った。							

4 利用者評価

区分	内容	評価
利用者の要望把握	<p>(1) 利用者要望把握方法 利用者アンケートの実施 ①活動毎アンケート ②利用者全体アンケート</p> <p>(2) 調査、会議等の内容 ①事業終了時に参加者から事業についての感想 (実施時期)各事業終了後 (調査方法)事業終了時に利用者に記入してもらう (回収率)100% (調査項目)事業についての感想・要望 ②利用者アンケートを実施 (実施時期)令和元年11月5日～12月4日 (調査方法)つどいの広場に設置し声をかける (回収)81枚(乳幼児のいる中で可能な限り協力を求めた) (調査項目)性別、住所、来所方法、年齢、つどいの広場について、一時保育について、事業について、感想・要望</p> <p>(3) 調査、会議等の結果 ①事業後利用者アンケートを集計し、職員間でそれぞれ反省会を行いながらできることから見直しを行った。 ②利用者の感想と要望の把握に努めた。 アンケート結果 性別(男性2.5%、女性97.5%)、住所(ふじみ野市88.9%)、来所方法(徒歩51.4%)、子どもの年齢(0歳17.3%、1歳23.6%、2歳30%、3歳8.2%)、つどいの広場の利用(月1～2回40.8%、週1～2回36.8%)、一時保育の利用(利用したことがある42.7%、登録しているが利用したことがない8.5%、登録していない42.7%)、広場の事業について(通信「ひろば」33.6%、市報26.5%)</p>	
	利用者からの評価・要望・苦情等	<p>(1) 良好とする評価 満足度が高い事業 親子リズム、あかちゃん体操、わらべうた、よみきかせ、ガチャガチャバンドの演奏会 利用者からの評価 (親子リズム)回を重ねるごとに少しずつできるが増えて成長を感じることができる。 (わらべうた)わらべうたの懐かしいリズムは子どもだけでなく大人も心が落ち着く。普段の生活でも活用したい。 (よみきかせ)予約なしで気軽に参加できるので助かる。よみきかせの他に布遊びや手遊びなどもあり楽しめた。知らない本に出会える。 (ガチャガチャバンド演奏会)音楽を聴くだけでなくエッグマカスや行進や体操などの参加型もあり親子で楽しむことができた。大人向けの曲もあり癒された。 (あかちゃん体操)あかちゃんとのふれあい方がわかり参考になった。ママ同士の情報交換や交流ができて嬉しかった。 (お父さんの日曜教室)子どものしつけについて話し合った際に原因になっていることを取り除いていく考え方がとても参考になった。子どもを真ん中にして深い話ができる友達ができて幸せ。他の参加者の意見を聞いて考え方が広がった。 (シャケちゃんとうたってあそぼう)普段聞くことができないギターの生演奏に子どもが興味津々だった。オリジナルのふれあい遊びに親子共々とても楽しむことができた。 (おもちゃの広場)良質なグッドイに触れることができて良かった。おもちゃ選びの参考になった。 (35歳以上で初めてのママ交流会)同世代で体のことや第2子のことなど深い話ができ有意義だった。今後も繋がれる仲間ができてよかった。 (講座絵本の扉を開けてみよう)今までに感じたことや考えたことのない絵本の見方を知ることができた。よみきかせや選書の参考にしたい。 (講座初めての夏の過ごし方)初めての夏を迎えるにあたって、日焼け止めの成分や塗り方など、大人との違いがよくわかった。 (講座小児救急)予防法や対処法を知ることができてよかった。すぐに役立つサイト情報を教えてもらって安心した。 (講座子育てで大切にしたいこと)頑張りすぎず子どもとしっかり向き合うことの大切さを学んだ。</p> <p>(2) 苦情・改善等の要望事項 ＜事業について＞ ①親子リズムは事業内容は、充実していて良いと思うが15組は多いと感じた。他の保護者や子ども同士がぶつかり危険を感じた。 ②よみきかせでは立ち歩き、座って聞くことができない子の保護者は参加しづらさを感じる。 ③ガチャガチャバンドの演奏会に参加したいが平日開催なので参加できないのが残念。 ＜つどいの広場＞ ④お弁当やおやつが食べられるスペースがあると良い。 ⑤イベントのある時間は自由利用ができなくて不便を感じる。 ⑥子どもが体調不良で嘔吐した時に、服が汚れてしまったので着替えを貸してほしい。 ⑦他の施設や緊急サポートセンター事業などの情報を提供してほしい。 ⑧自分(母親)が頑張ってる広場を利用している証に「出席カード」のような物を作ってもらえると、目に見える形で励みになる。 ⑨動きが活発な子がいる時にはトラブルが起きやすいので、常に職員が見守って欲しい。受けた方の親が注意すると角が立つので。 ＜一時預かり＞ ⑩市外の人でも預かってもらいたい。 ⑪時間の制限をなくしてほしい。予約が取りづらい。</p> <p>《対応措置》 ＜事業についての対応措置＞ ①部屋の広さから15組は危険を伴うことから定員を13組に変更しました。 ②保護者が参加しやすいようにまた、リラックスしてもらえるように子どもたちによみきかせの時間であることをわかるように伝えて行けるように工夫していきます。 ③ガチャガチャバンド演奏会は平日開催していますが、令和元年度は12月の日曜日に実施し、多くの方に参加してもらっており、今後も日曜開催を検討していきます。 ④食物アレルギーのお子さんも多いので、皆さんが安心して過ごせるように広場内での飲食はご遠慮頂いています。 ⑤場所に限りがありますので、イベントがあるときは利用時間を制限させていただいております。その場合は、イベント終了時刻などを明示した張り紙などでわかりやすいようにしました。 ⑥感染症を想定し、対象者が返却しなくても良い着替えを職員が持ち寄り用意しました。 ⑦お問い合わせのあった施設や事業について調べて情報を提供しました。 ⑧現在は全員に出席カードのようなものを配布することは考えておりませんが、希望であれば、個人の手帳などに来所の証としてシールなどを貼ることは可能です。 ⑨常に広場の状況を把握しながら見守っていきます。 ⑩一時預かりの利用基準で市内在住で生後6か月以上就学前までの幼児としています。 ⑪子育てふれあい広場の一時預かりの目的は、保護者のリフレッシュや急な用事など一時的な預かりを目的としていますので、5時間までの制限としております。</p>

	指定管理者収支(令和元年度)				市の収支				評価	
	年度計画額		収支実績額		令和元年度決算		平成30年度決算(前年度)			
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額		
①指定管理業務事業収支	収入	利用料金	2,400,000	利用料金	2,337,200	歳入	施設使用料		施設使用料	
		指定管理料	25,909,500	指定管理料	25,909,500		行政財産使用料		行政財産使用料	
							国庫支出金	5,320,000	国庫支出金	5,130,000
		雑入	100	雑入	54		県支出金	5,320,000	県支出金	5,130,000
				その他			その他		その他	
							計	10,640,000	計	10,260,000
	支出	計	28,309,600	計	28,246,754	歳出	修繕料		修繕料	
		人件費	24,901,960	人件費	25,060,465		保険料		保険料	
		消耗品費	400,000	消耗品費	190,829		指定管理料	25,909,500	指定管理料	25,876,500
		光熱水費	820,000	光熱水費	802,243		業務委託料		業務委託料	
		委託料	403,790	委託料	150,120		土地・建物賃借料		土地・建物賃借料	
		賃借料	104,240	賃借料	105,188		その他		その他	
		通信費	192,734	通信費	172,038					
		保険料	205,000	保険料	204,849					
		修繕費	0	修繕費	93,500					
		事業費(市指定事業)	1,051,876	事業費(市指定事業)	1,136,917					
		公租公課	0	公租公課	0					
		一般管理費(本社経費等)	230,000	一般管理費(本社経費等)	226,152					
計	28,309,600	計	28,142,301	計	25,909,500	計	25,876,500			
収支	0		104,453		差引	△ 15,269,500		△ 15,616,500		
②自主事業収支	自主事業収支	収入	36,400	収入	4,100					
		支出	36,400	支出	60,000					
		自主事業収支	0	自主事業収支	△ 55,900					
③収支 ※指定管理事業+自主事業(①+②)	収支	0		48,553						
④市への納付金 ※納付金がある施設のみ	市への納付金	支出		支出						
⑤最終収支(③-④)	収支	0		48,553						
分析	人件費比率【人件費/指定管理者事業支出】							89.0%		
	事業収支における経営分析				新型コロナウイルスの感染拡大防止による緊急事態宣言等の影響もあり、収入源でもある一時預かりの利用料金が当初計画を下回ってしまった。また、消耗品費は極力購入を控えたこと、委託料は、多言語対応できるように作成したパンフレットの翻訳修正がなく、さらに保育ボランティアへの依頼が少なく済んだことで大幅減となった。当事業は、人件費比率が多くを占める事業であり今年度は88.5%と昨年度よりさらに比率も高くなった。保育の質と量を確保する上で保育士の処遇改善などを行っていく必要性もあり、利用料金の収入減による影響が大きい中、収支104,453円のプラスとなったことは、限られた予算の中で運営ができており、経営状況はおおむね適正であると考え。					
	一般管理費が、計画額と実績額で異なる理由									

6 管理運営全般 ※すべて「適」で「3」。「4」「5」「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
市との連携	1 市への報告、連絡、相談又は協議が適切に行われたか	適	3
	2 市からの指示等に対し適切な対応が図られたか		
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が適正で有効に配置されているか	適	
	配置実績 正規職員 7人(育休1人)及び非常勤職員 6人(正規・非常勤保育士 13人)、経理事務(本部職員)1人		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	適	
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 利用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	適	
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	適	
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
その他	2 備品は台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	適	
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
特記事項	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが適切な時期に提出されたか	適	

7 危機管理体制 ※すべて「適」で「3」。1箇所でも「否」の場合は「1」。「4」「5」「否」とする場合は、必ず特記事項欄に理由を記載すること。

区分	確認内容	適否欄	評価
安全対策	1 危機管理マニュアルが整備されているか	適	3
	2 危機管理マニュアルの内容が職員に周知されているか		
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	適	
防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	適	
	2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	適	
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		
特記事項	救命救急講習を職員全員が受講し、緊急時に備えた嘔吐対応訓練を11月と12月に行った。		

総合評価

【総合評価】 S:極めて優れている/A:優れている/B:やや優れている/C:適正である/D:努力が必要である/E:改善が必要である

総合評価		子育て支援施設	
評価項目	評価	総合評価	
施設の設置目的の達成	3	C	
指定管理者の健全性	3		
施設の有効活用	3		
利用者評価	3		
事業収支	3		
管理運営全般	3		
危機管理体制	3		

評価理由

- 基本協定書及び仕様書の内容に基づき、適正に管理運営できている。特に「つどいの広場」において、利用者のニーズに応じ、工夫を凝らした様々な事業を計画し、実施している。
- 新型コロナウイルスの影響を受け、休館中には、子育てふれあい広場の名物である段ボールによるおもちゃ作りで子どもたちが乗って楽しめるような電車や車の製作などを行い、開館に向けて子どもたちを喜ばせる準備をしてきた。さらに、通常広場で行っている事業の内容を市のホームページからインターネットを活用した動画配信を行い、多くの人に視聴してもらうことができた。
- 広報活動などにも力を入れ、通信「ひろば」、市報、ホームページ、Fメールなどを通じて子育て世帯向けに周知を行い、利用者の増加に繋がった。
- 広場での相談体制を強化し、令和元年度から保育士資格を持つ職員全員で相談業務を行うことにより、気軽に利用者が相談できるようになったようで、前年の相談件数と比較し1.5倍以上増加した。さらに一時預かりについても安心して利用できる場所として、利用者からは評価を得ている。
- 子育て支援拠点会議に出席しており、市及び他の子育て支援拠点とも連携が図られている。子育て支援者研修として講師を招き、162人の出席者を集める講演会を共同で実施し、好評であった。
- 毎年つどいの広場の活動を通じて、子育て支援グループや自主活動グループの育成にも力を入れている。地域で活動する劇団グループやウクレレユニットなどとの協働で、つどいの広場を発表の場として提供し、親子に豊かな文化に触れる機会をつくり喜ばれた。
- ココネ1階上福岡駅前商業地域の立地条件を活かし、一時預かり、つどいの広場、子育て相談、情報提供など多面的な事業を企画提供している。
- 令和元年10月からの幼児教育・保育無償化導入時には、制度改正について職員全員で勉強会などを開き、熱心に準備を進め、利用者への対応に備えてくれた。

取組・改善案等	前年度からの課題・改善事項	実施状況	次年度へ向けての目標・取組・改善事項
	<ul style="list-style-type: none"> ①「わいわい子育てミニサロン」という保護者が悩みを簡単に相談できるような交流の場の実施に向けた準備していく。 ②ふれあい広場職員独自の避難訓練(火災・地震・不審者)を定期的に取り組む。 ③つどいの広場及び一時預かり利用者が更に増加するように事業の充実及び広報活動に努める。 ④参加費を徴収する自主事業を増加させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①交流の場を通じて、保護者の悩みをそれぞれ共有しあい、話しあうことが参加者の前では難しく断念したが、個人的に気軽に職員へ悩み相談などができる体制を作った。 ②毎月の職員会議での実施を計画したが、9月の不審者対応として実施した。 ③夕方のほっこりタイムを「夕暮れタイム」と名付け、年間221回実施した。また、相談の内容によっては保護者がお子さんを預け、その間リフレッシュできる一時保育の利用を勧めた。広報活動では、通信「ひろば」、市報、ホームページ、Fメールを通じて子育て世帯向けに周知することができた。 ④「シャケちゃんとうたってあそぼう」と講座「絵本の扉を開けてみよう」で1家族100円の参加費を徴収した。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい広場職員独自の避難訓練(火災・地震・不審者)を定期的に取り組む。また、専門家の力を借りて避難・防犯訓練とワンポイントアドバイスを組み合わせた新規事業も取り入れていく。 子育て講座を1回から2回に増やし、ニーズに多面的に対応していく。 参加費を徴収できるような事業を増加させていく。 新型コロナウイルスなどで家庭にこもりがちな保護者のストレス等の悩み相談などに応じられるような環境整備をさらに強化していく。 市内乳幼児の人口低下に伴う、利用者減への対策

指定管理者自己評価

(1) 評価期間の取組に対する評価

① サービス向上に向けての取組

・事業ごとのアンケートの他に、利用者アンケートを実施し、利用状況を把握・分析することに役立てた。要望を取り入れながら、事業計画を立て、利用者の満足度を高めた。
・全ての職員が保育士資格を保有しており、そのほか社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、相談支援専門員など幅広い知識を持った職員と連携、協力して子育て相談に対応することができた。

・職員研修では代表で研修を受講してきた者が、職場内では講師として内部研修を行い、質の高い事業や保育ができた。

◎「救命救急講習」

全職員が受講し、緊急時に対応措置が講じられるよう準備した。

◎「わらべうた・あそび教室」

わらべうたや手遊びを事業で実践すると共に、あかちゃん体操で、何気ない言葉でもリズムをつけながら語りかけていくことの大切さや、それが子どもの言葉の獲得や親子のスキンシップに繋がることを伝えることができた。

◎「発達と支援を考える教室」

発達障害のことを学び、子育てで悩む保護者に対して信頼関係を築きながら寄り添えるよう、子育て相談に活かした。

◎「同僚性を高め、より良い職場をめざす教室」

職員の同僚性を高めるために、手始めに職員会議の内容を見直し始めた。

・「ほっこりタイム」では子どもが楽しんでいる間、お母さんがホッと息を抜ける場になるようにと心掛けた。事業に参加しない親子の受け皿にもなっている。また、その時間に担当職員が選定した本のおよみかせを行い、前年よりさらに充実したほっこりタイムとしての事業が定着してきた。

・つどいの広場の利用者が低年齢化していることから、各事業では低年齢児でも親子で一緒に楽しめるようわらべうたあそびやふれあいあそびなどスキンシップを多く取り入れた内容で実施している。

・利用者を不審者の侵入から守るため、危険を知らせるパトランプの設置と、職員の催涙スプレーの携帯や防犯訓練を行った。

・広場の定番となっている段ボールを使った手作りおもちゃや事業で使用する教材を新たに作成・修理を行い、広場活動の充実を図った。

・自由利用者の対応や事業活動、一時預かり保育の状況を常に把握し、職員間で業務のバランスを図った。

・「つどいの広場」では広報の充実を図った。ふじみ野Fメール・市広報誌・法人のホームページへ掲載し周知した。

・保育料無償化の制度導入の際、職員会議に市の職員の方に来て頂き、内容について詳しい説明を受けて制度の理解を深めた。

② 業務効率化に対する取組

・相談の記録を職員間でより共有できるよう、個別相談を時系列に確認できるようにファイリング方法を工夫して子育て相談の充実を図った。また、相談受付の館内掲示をして相談しやすい雰囲気をつくった。

・複数の職員で事業活動を兼務することとし、積極的に職員同士でアドバイスしあうなど事業効率化を図ることができた。

③ その他

・閉館後に施設やおもちゃの清掃を行いながら、危険な箇所がないか安全点検を行っている。安全マニュアルについても、月1回の定例会議で職員間の確認をしている。

・苦情に迅速に対応できるよう苦情処理体制を整え、対応内容など職員間で情報の共有を図った。

・朝の打ち合わせで子育てふれあい広場の様子などを全職員で情報共有するため、職員同士の引継ぎや打合せも欠かさず行っている。

・子育て支援拠点会議に出席し、市内の子育て支援施設と支援方法や情報共有することでサービスの向上に努めている。

(2) 管理業務実施上の課題

・事故やケガがおきないように職員間で常に安全確認に努め、見守り活動を実施や安全チェックを心掛けていく。

・会館(ココネ)合同による避難訓練の他、広場職員独自の避難訓練を定期的実施していく。(火災・地震・不審者対策)

(3) 次年度以降の取組

・利用者から参加費を徴収する事業を増やす(ジャケちゃんとうたつてあそぼう、講座「絵本の扉を開いてみよう」、子育て講座2つ)